COMIC MARKET
12〜18

（川崎市民プラザを中心に）

comic market 12

水野流転

C12データと概況

開催日：1979年7月28日～29日
会　場：東京都立産業会館台東館
参加サークル数：330SP
参加者数：4,000人

ポスター：水野流転
イベント：本郷修学旅行会館にて40人が参加し合宿。コミケット年鑑（1～11回）発行。ゴミ箱からぽやを出したため、ここでの開催は1回限り。準備会は機構の再編へ動き始める。男性参加者が増加し始める。

コミケット12事前配布物より

COMIC MARKET☆12
企画参加ガイド

決定！
コミック・マーケット・12
（79年7月28日(土)11:00AM～5:00PM・於．浅草都立産業会館（台東館）4F.
＝29日(日)11:00AM～4:00PM（併設．アマチュアアニメ展・アニメ発見伝PART2＝〈予定〉）

参加申込方法

① 申しこみ書に、参加費を郵便小為替か定額小為替（名前等記入をぬかこと！）にかえて同封し、7月10日までに下記あて郵送して下さい。（現金書留、及び現金の同封は厳禁）
〒155 東京都 世田谷区 代沢 2-42-11 池の上 駅前 郵便局 ゆめ
コミケット準備会．米沢よしひろ．

＊参加費

	28日のみ	29日のみ	両日
同人誌即売＋原画展示（1スペース（テーブル1本））	1,000円	1,000円	2,000円
同人誌即売＋原画展示（2スペース（テーブル2本））	1,800円	1,800円	3,600円
原画展示のみ	----------	1,000円	2,000円
パンフレット・ビラの配布など	----------	1,000円	2,000円
アトラクション参加（アニメ など）	----------	個別にうちあわせます。	

当日キャンセルしても返しできません

＊申しこみ書は原則として1サークル1枚。従って同じスペースに2サークル以上はいるときは参加費はまえおきとなりますが申込書はサークル数だけ必ず提出して下さい。（モグリはだめヨ！）
＊地方のサークルのために委託参加システムもあります。→同人誌または原画に2,000円（2日とも）を郵便為替でそえて厳重に梱包し、上記あて7月15日まで送、てください。売りあげと残部はそくり8月中に返送しますがそれにかかる郵送費は売り上げより差しひかれます。
＊〆切以後及び当日の受付、立売りはありませんので注意して下さい。

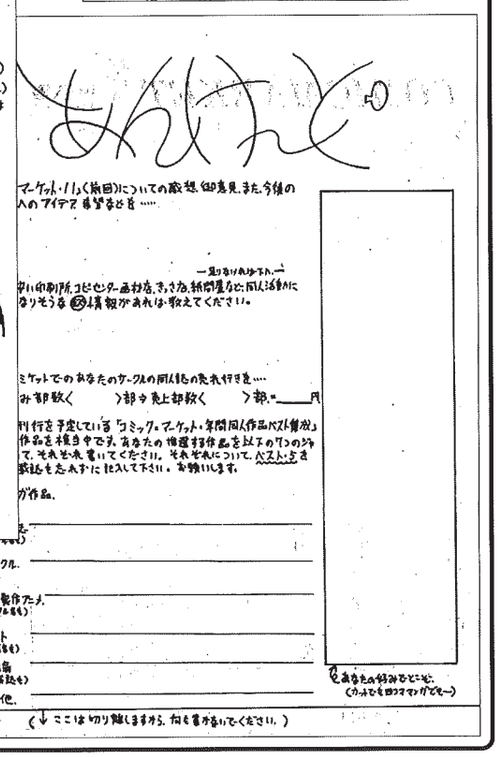
② 委託参加のサークルを除く直接参加サークルは下記の事前集会のうちどちらか1回に必ず参加して下さい。連絡もなくこれに不参加のサークルは、コミケット当日の受付において、スペース配置などの点で不利な扱いとなり、場合によっては参加を認められないこともあります。集会では以下のことが行なわれます。

- スペース（テーブル）の配置を決めるクジ引き。→配置は抽選後準備会で調整し、コミケット当日の朝各サークルに配置図を配って場所を示します。そのさい、テーブルで一種に並びたいサークルは、あらかじめ仕業を1人にしぼってクジを引いて下さい。また、配置のうえで、まんが関係のサークルとアニメサークルは配置場所が分れますので御了解ください。
- 即売以外の形でのサークル参加。（受付原画展示、アニメ上映、パンフ配布、アトラクション など）について、口頭でうちあわせます。
- 申込書の確認と未払参加費の支払。
- 更本同人誌のうけとり、コミケット・ポスター（準備会作成）の配布

事前集会
☆7月21日(土) 1:30PM～5:00PM
☆7月22日(日) 1:30PM～5:00PM
→於．新橋区民会館 集会室（地図は次ページ）

〈コミケット準備会．79.6.3 発行〉

COMIC MARKET K 申込書



コミケット12事前配布物より

③ コミケット・12当日の諸注意！

- 参加サークルと準備会関係者は、両日とも朝9:00AMまでに会場へ集合してください。遅れるか不参加のところは、会場へTEL [redacted] 4階の南1～3番のいずれかに）してコミケット準備会スタッフを呼びだし、そのむね連絡してください。（キャンセルと見なすことがあります。）
- 集合後、サークル到着を確認し、1サークルに代表2名に名札をわたしますので、個人名を記入してコミケット終了までずっとつけていてください。また配置図にそってテーブルを並べますので、各サークルの協力を！並べ終ったら、配った配置図に従って、それぞれのスペースについて下さい。
- 11:00AMの一般参加者への開場にさいして、名札をつけた2名の代表をのぞき、全員混乱をさけるために、一度会場外へ出てもらうか机の内側にはいってもらいます。
- 原画展示、掲示については、会場内では、天井からヒモでつりさげる形式のみになります。従ってヒモとテープの用意を、壁への張り紙は禁じられています。（セルも同様）
- コミケットの性格上、まんが本を含む市販商品、著作権を無視したものの販売、自主上映以外の券（チケット）の売買等は禁止されています。特に、アニメ関係での即売で、セル及びTVビデオからの写真、アニメキャラ等の模写の販売、量産化は厳禁です。破ったサークルは、参加を認めません。そのつもりで。

! 非常階段は4階最奥、及び建物の外側にそなえつけたものがあります。事故発生の時はすみやかに指示に従ってください。

- はやめにひきあげるサークルは、受付にそのことをつげて、確認をうけ、そのさい必ず名札を受付にもどしてください。
- 29日(日)4:00PMより報告＋反省会が同じ会場であります。よほどの事がない限り参加して下さい。
- 両日とも5:00PMまでに解散して全員会場をでます。それまでのテーブル整理やそうじに、ぜひ各サークルの協力をお願いします。また名札の返却を忘れぬように。

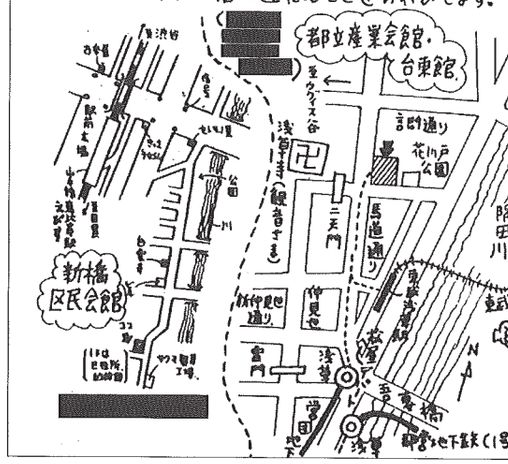
☆ その他、＝つり銭、モンゾー紙、ヒモ、テープ、マジック、ゴミ袋etc.は各サークルで必ず持参のこと。
＝場内禁煙＝　＝飲食販売はありません＝　＝駐車場有＝

④ コミケット・12終了後、54年の10月中に、〈コミック＝マーケット12の概要と、コミケット・13申込書〉を内容とする〝コミック＝マーケット・12レポート〟を各参加サークルに送付します。なお、余分にほしいところ、及び不参加サークルには、送料共1部100円（1こつま）を同封して準備会あてに申しこんでもらえれば、お送りします。

☞ 次回コミック＝マーケット・13は、54年12月中旬～下旬開催予定。くわしくは『ぴあ』『シティロード』『奇想天外』などに載るので、要注意！

☆ コミック＝マーケット・11レポートは、『コミケット年鑑』に収めて、後日発送します。御了解のほどを……。

☆ コミケット・9、11レポートを含む『コミケット年鑑，79』がコミケット参加全サークルリスト、アンケート集計、報告記事etc.を内容として、6月に刊行されます。値は未定ですが、コミケット・12参加サークルには全て無料で送付します。なお、刊行が大幅に遅れたことをおわびします。

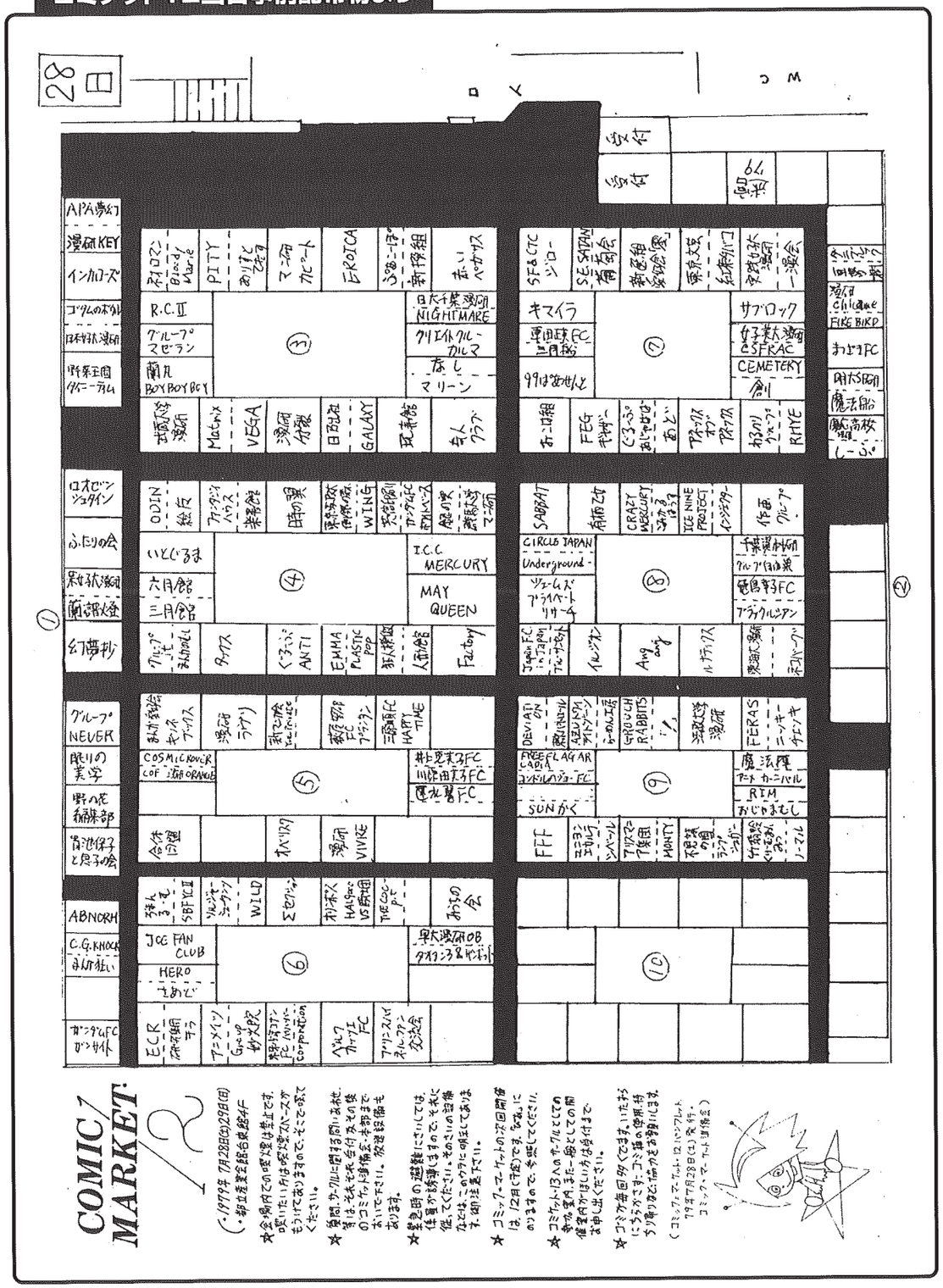


＝ INFORMATION of 合宿!?＝

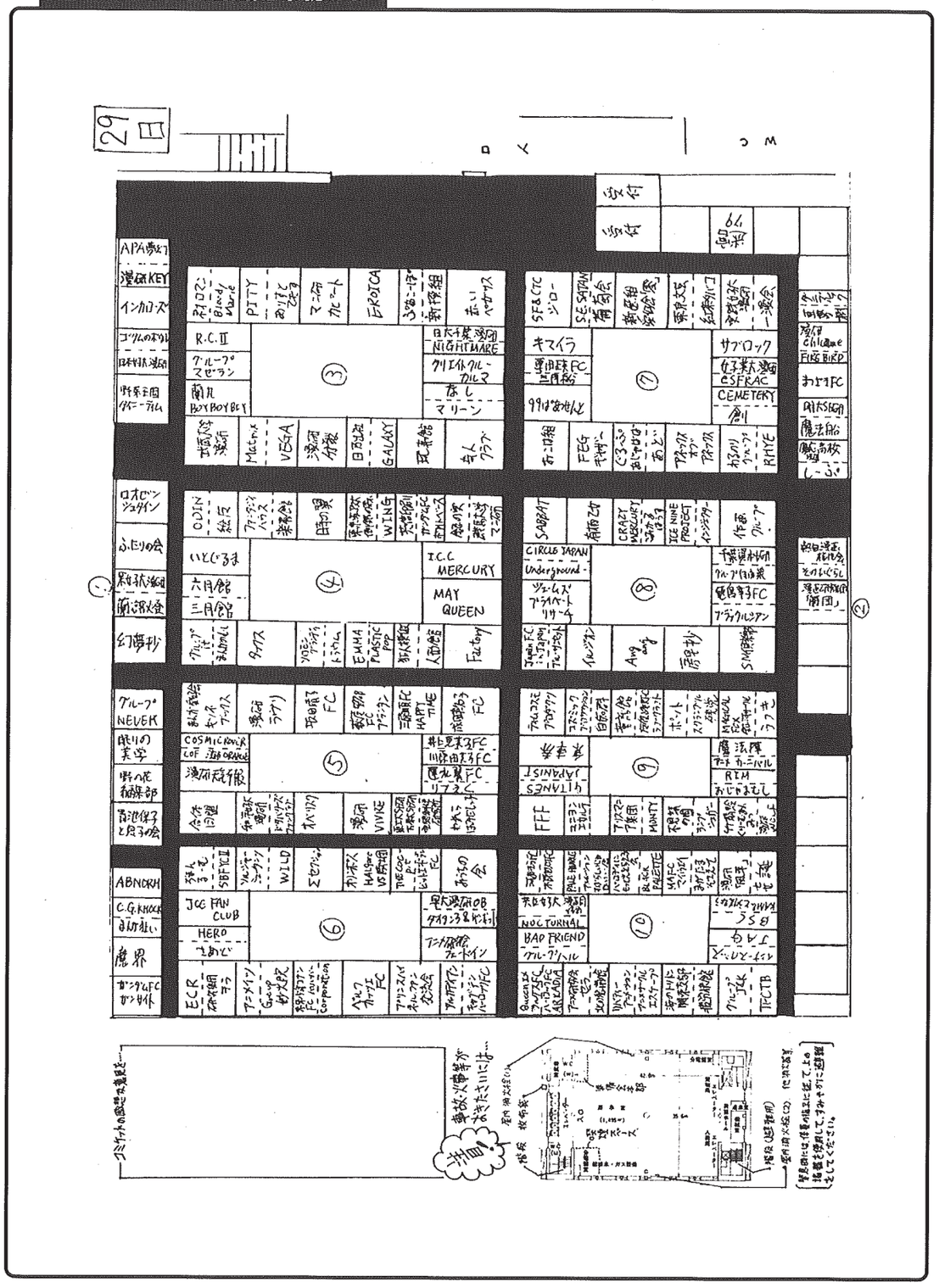
28日(土)の夜に、地方から来るん、また、ファンどうしで語ってみたい人達のための合宿（予定としては、1泊朝食付で3600円程度、ミニ・イベント有）を企画中です。希望者は7月までに準備会あて〝合宿希望〟と書いたハガキを（年令も記入のうえ）送、てください。合宿所等くわしく決定したら、至急、参加申込書をお送りします。サークルごとの参加も歓迎！ふるって参加を呼びかけます♪

☞ 最後に……しょうこりもなく準備会からのお願いを。
- コミケット準備会に、さらなる御支援（カンパ）を！
- コミケットへの協力者募集中!!（してもいいという方、事前集会へきてください）
- 〝コミケット＝ベスト〟編集スタッフも募集してます。

コミケット12当日事前配布物より



コミケット12当日配布物より



comic market 13

竹田やよい

C13データと概況

開催日：1979年12月23日
会　場：大田区産業会館3・4F
参加サークル数：290SP
参加者数：4,000人

ポスター：竹田やよい
折からのブームに、ガンダムのサークルスペースは大混雑となった。

COMICMARKET MESSAGE

この冬に行なわれるコミックマーケット13で、丸四年コミケットは続いてきたことになります。夏に行われたコミケット12は、都立産業会館台東館というだだっ広い会場を得て、盛況のうちに終りました。しかし、この手の会場は規制も厳しく問題があり、12月はまた古巣の太田区産業会館に戻ることになりました。古巣で手慣れているとはいえ、250余りのサークルに加えて3〜5,000人の、マンガファン達という現在の状況では、決して楽観はできません。数人のスタッフと多くの人達の有形無形の協力でここまでやってきましたが、そろそろ現在のシステムでは限界がきているといえるでしょう。

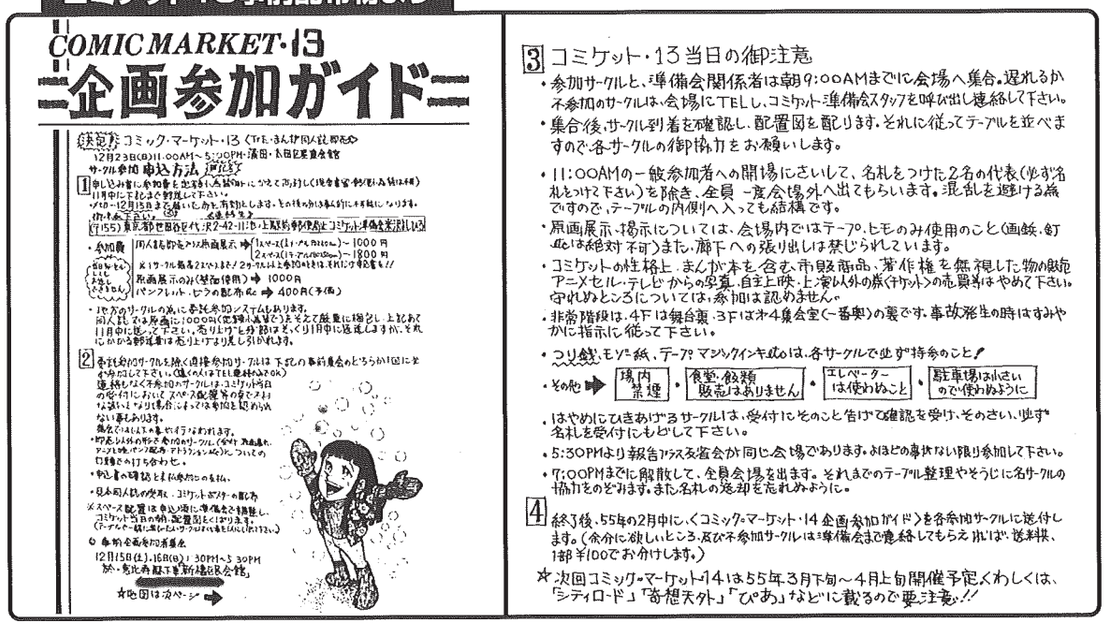
コミケットは、ただ単に同人誌を売る場というだけでなく、マンガに関わる者達の出会いの場、あるいは同人マンガのパワーを示す場としても充分に機能していく必要があります。定着、維持からそろそろ歩を進めていかなければならない時期にきているといえるでしょう。とりあえず、それは資料等のコミケット年鑑への一本化、コミケットにおける同人マンガのベスト集成という「形ある結果」等の作業にかかっていくことになります。まだまだ、やれることやらなければならないことは沢山あります。

その為には、コミケット準備会という現在のシステム、スタッフを強化していかなければなりません。スタッフ募集!協力求む!といった例の如くのコミケットのお願いから、もう一歩進んだ形での協力要請も考えています。コミケットを続けていく為にも、各参加サークルが自覚を持ってコミケットに関わってくれることを望みます。はっきりとした形での準備会は来春には動き出す予定です。参加、協力を求めます。

なお、長い間スタッフとしてやってきた原田史男氏が、コミケット12をもちまして、準備会から離れることになりました。

それでは、70年代最後のコミケットである13を乗りきり、80年代に向けて新たなる前進を始めることにしましょう。たぶん、それは……　　1979.11.7　(YY)

コミケット13事前配布物より



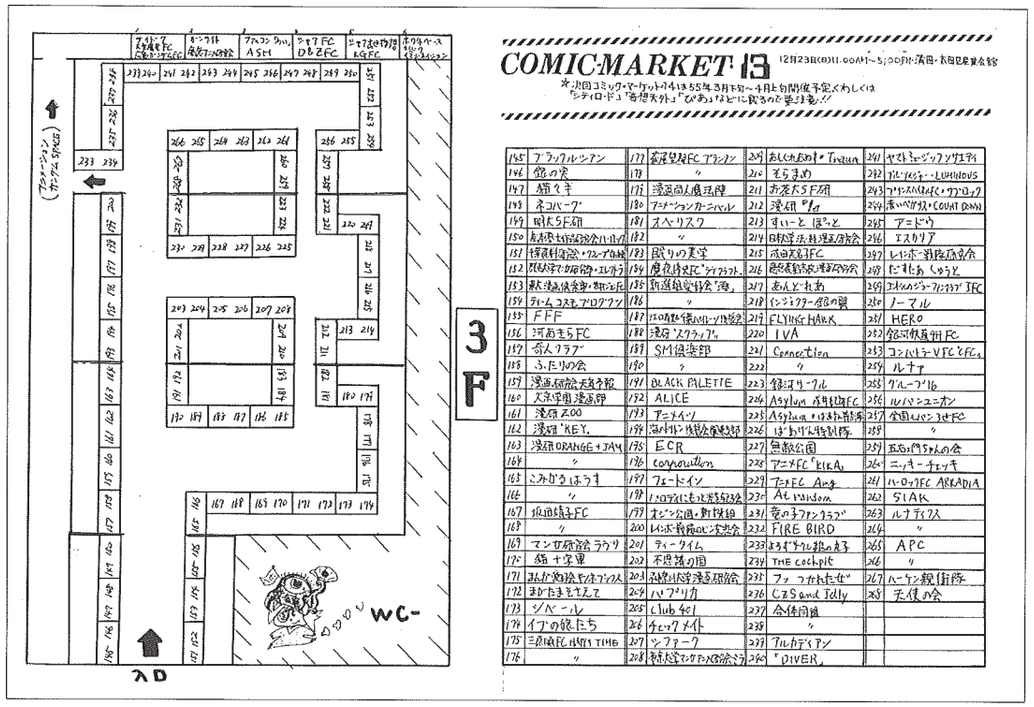
COMIC MARKET・13
企画参加ガイド

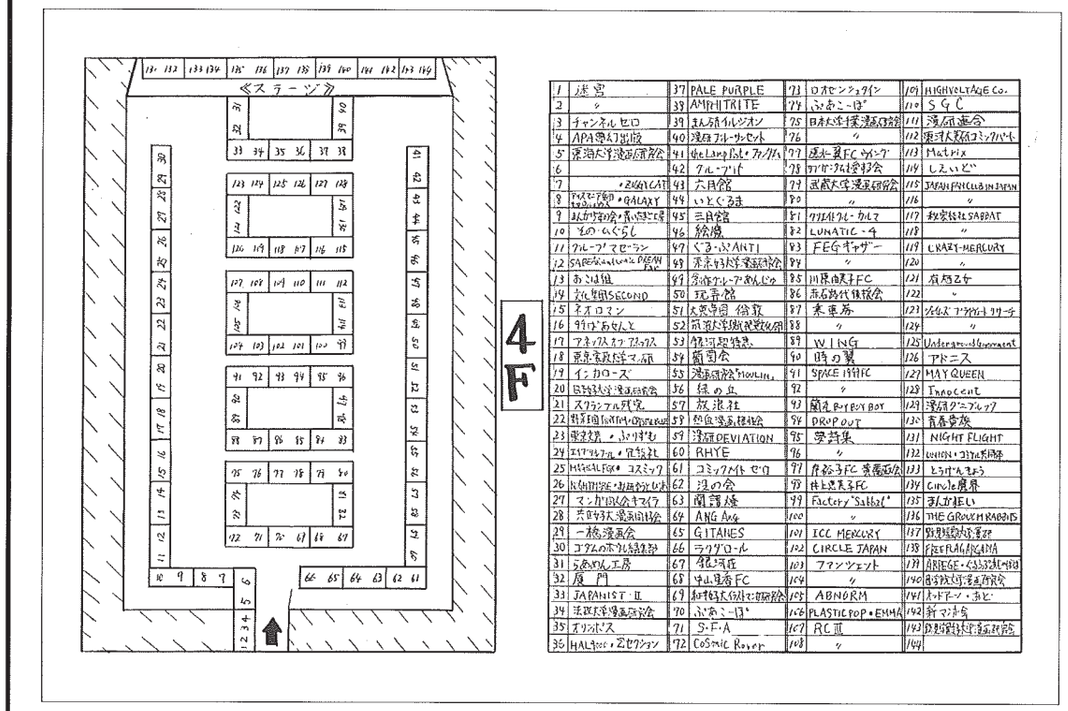
鉄筋 コミック・マーケット・13 (下見・さんか同人誌即売会)
12月23日(日) 11:00AM〜5:30PM・浦田・太田区産業会館
サークル参加申込方法 要注意
1 申し込み書に参加費を添付し、右記宛に、なるべく高封して(1部を封筒の裏側に貼付)11月中に下記あて郵送して下さい。
・ダメ日・12月13日を過ぎて届いたもの、申込書しか送ってきたもの、その他の内容不備・不明・不足・不明なものは、参加不可とします。
(〒155) 東京都世田谷区代沢2-42-11-B 上馬郵便局私書箱 コミケット準備会業務担当宛
・参加費 用意する部数をマスに無画展示 ⇒ (1スペース(1テーブル)) 〜1000円 (2スペース(1テーブル)) 〜1300円
(参加しない人でもいいよ!) ※1テーブル幅を2スペースまで2テーブルまでは1参加費は、それにプラス400円
原画展示のみ(壁面使用) ⇒ 1000円
パンフレット・ビラの配布のみ ⇒ 400円(予価)
・1枚カットサークルの為に、参加費をプールしてあります。同人誌、ビラ、パンフ原画に1000円(定額)(1人単位)を支えて総量に換算し、上記あて11月中に送って下さい。売りはじめ上分・部ほど多くの1日中に送れなくなります。それにかかる郵便料は売り上げより差し引かれます。
2 参加費の入ったサークルを除く準備参加サークルは下記の事前集合のどちらか1回にお集まりください。(遅くめくれるTEL要請はOK)
連絡もなく不参加のサークルは、コミケット時間の受付に、あいて スペース配置 の為ですから、ぜひ、ご了承願います。
ない事もあります。
集合ではなにを事前やるのかは、
・印刷物以外の展示・参加のサークル(例えば 原画展示、マンフレット配布、ビラ配布、ポスターの配布)
・参加しない時間のとき(参加はしないが、ビラ配布)
・参加者の時間とき(参加はしないが、ビラ配布)
・参加者の時間とき(参加はしないが、ビラ配布)
・参加者の時間とき(参加はしないが、ビラ配布)
※スペース配置は、当日の現場に準備をさせ、コミケット当日の朝、配置図をとります。(テーブル・椅子・机・ポスターは、当日は用意しません。)
◎ 参加企画参加者集合
12月15日(土) 1:16B(日) 3PM〜5:30PM
於・東京都下里新橋BR会館
☆地図は次ページ

3 コミケット・13当日の御注意
・参加サークルと、準備会関係者は朝9:00AMまでに会場へ集合。遅れるか不参加のサークルは、会場にTELし、コミケット準備会スタッフを呼び出し連絡して下さい。
・集合後、サークル到着を確認し、配置図を配ります。それに従ってテーブルを並べますので、各サークルの御協力をお願いします。
・11:00AMの一般参加者への開場にさいして、名札をつけた2名の代表(必ず名札をつけて下さい)を除き、全員一度会場外へ出てもらいます。混乱を避ける為ですので、テーブルの内側へ入っても結構です。
・原画展示・掲示については、会場内ではテーマ、ヒモのみ使用のこと(画鋲、釘は絶対不可)また、廊下への張り出しは禁じられています。
・コミケットの性格上、まんが本を含む市販商品、著作権を無視した物の販売アニメ・セル・テレビからの写真、自主上映、上演以外の原(コピー)の売買はやめて下さい。守れぬところについては、参加は認めません。
・非常階段は、4Fは報告裏、3Fはオ4集会室(一番奥)の裏です。事故発生の時はすみやかに指示に従って下さい。
・つり銭、モノ・紙、テープ、マンガ、クイン・ギ・ルは、各サークルで必ず持参のこと!
・その他 ⇒ 場内禁煙 ・ 食堂・飲料販売はありません ・ エレベーターは使わぬこと ・ 駐車場は小さいので使わぬように
はやめにひきあげるサークルは、受付にそのこと告げて確認を受け、そのさい、必ず名札を受付にもどして下さい。
・5:30PMより報告プラス反省会が同じ会場であります。よほどの事情ない限り参加して下さい。
・7:00PMまでに解散して、全員会場を出ます。それまでのテーブル整理やそうじに名サークルの協力をのぞみます。また、名札の返却を忘れぬように。
4 終了後、55年の2月中に、〈コミック・マーケット・14 企画参加ガイド〉を各参加サークルに送付します。(余分に欲しいところ、及び不参加サークルは準備会まで連絡してもらえれば、送料共、1部¥100でお分けします。)
☆次回コミック・マーケット・14は55年・3月下旬〜4月上旬開催予定。くわしくは、「シティロード」「奇想天外」「ぴあ」などに載るので要注意!!

chronicle C13

コミケット13当日配布物より





comic market 14

星野安治

C14データと概況

開催日：1980年5月11日
会　場：川崎市民プラザ
サークル数：380SP
参加者数：推定6,000人

ポスター：星野安治
新会場を得、準備会自身も人員を拡大し、
受付・警備・救護等の班分けが行われる。

準備会からのメッセージ

「コミケットとは?」等と書きださなければならない。というのは、前回のコミケットで、あるサークルが「俺達は客なんだぞ!」と準備会に向かって言ったということを聞いたからである。はっきり言って準備会は参加サークルに対して商売をしているわけではない。

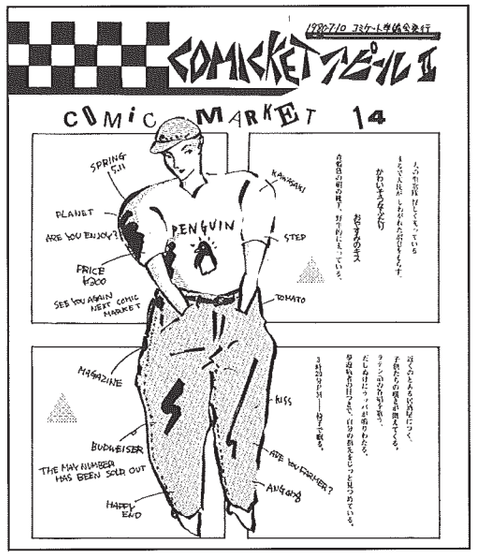
参加費は、会場費、連絡費、印刷費、雑費（丈具、交通費etc.）という運営に必要な費用でほとんどなくなってしまうし、手伝ってくれる人たちもスタッフもコミケットから一銭ももらってはいない。つまり、準備会にとってのメリットはほとんどないといってよい。

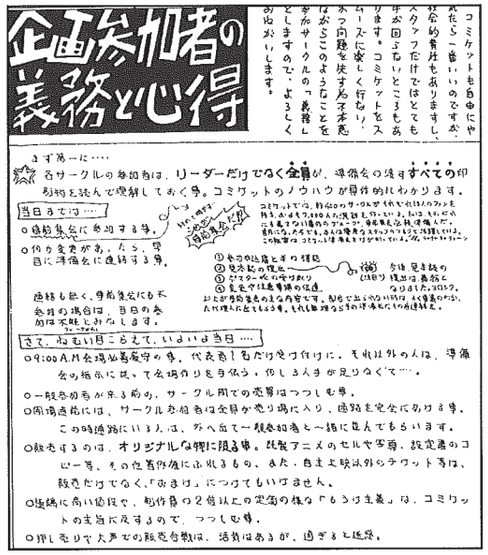
また、同人誌を買いに来る人達も「客」ではない。準備会が、参加サークルを企画参加者、買いに来る人達を一般参加者と書いてきたのは、「コミック・マーケット」がマンガ・アニメファン達のコミュニケーションの場であるという認識からだ。同人誌を媒介にして、マンガファン達がつながりあうという前提なしには、コミケットは続けてこれなかったろうし、続けてもいけないだろう。コミケットは「商売」の場を提供しているわけではない。商売をしにきているのだったら、「あがり」の何パーセントかを準備会に上納するのが「すじ」だし、それなりの商売道徳を持ってもらわなければ商工会議所から文句がき、税務署も目をつけるだろう。

自らのマンガ、アニメに対する想いを同人誌という形に託して、他のファンたちにアピールすることこそ目的と考えているから、出会いの場としてコミケットを持続させようとしているのだ。さらに、コミケットはコミケット自体の為にあるのではなく、外に向かって何かをやろうとするマンガファン、それを受けとめようとする人達の為にある。コミケットを創っているのは、参加サークルであり、それを見に、買いにやってきてくれるマンガファン達なのだ。そして、同人誌の創り手である人達は、買いにきてくれる人達に対して送り手としての責任を持たなければならない。どうせ創るのなら、面白くしなければ損だし、出来る限りの物を出さなければ馬鹿馬鹿しいということである。コミケットの存続とは各サークルの活動そのものに関わっているということを自覚してもらいたい。

COMIKETアピールII　1980年7月発行より

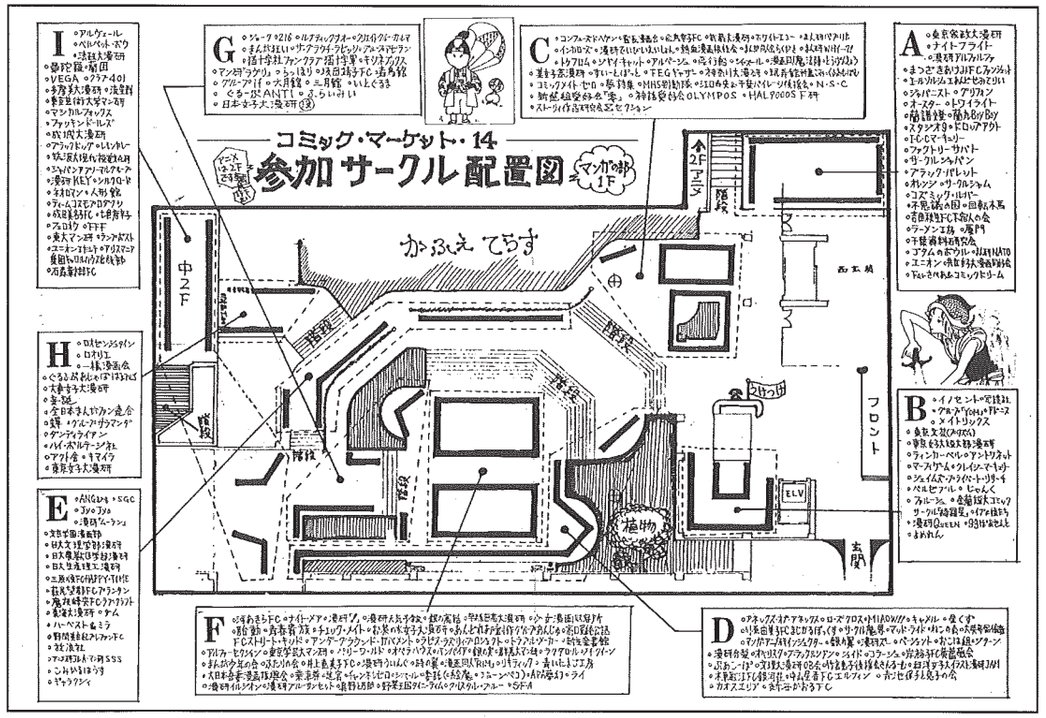
コミケット14事前配布物より





chronicle C14

コミケット14当日配布物より



comic market 15

竹沢コウ

C15データと概況

開催日：1980年9月14日
会　場：川崎市民プラザ
サークル数：340SP
参加者数：推定7,000人

ポスター：竹沢コウ
コスチュームプレイヤーが激増。
入場制限が厳しくなり、アニメ会場が混乱した。

コミケット新体制 !!

前回のコミケット14では、配置や机の問題で随分と参加サークルに御迷惑をおかけしてしまい、準備と運営を仕事とする準備会としてその不手際に恥入っています。特にアニメサークルの方には、配置図との違いや机の不足、つめ込みといった問題で御迷惑をおかけしました。言い訳という形になりますが、何故ああいった混乱が起きたかということを少し書いておくことにします。

一つには会場側に予約しておいたセミナールームがまちがいで借りられなくなり、机と場所が少なくなったこと。当日にそのことが解ってどうしょうもなかったということです。次に2階の三つの会議室の広さをまちがえて把えていたこと。50の机を入れる予定が40しか入らなかったのです。さらに、参加サークルの予定数を少なく見つもっていたことです。また、ブロック別受付けという新しい形も混乱を招いたようです。

なんにしても問題は一つ。スタッフの少なさと、参加サークルの増大、会場の狭さといったものを問題にしてしまう、コミケット自体の膨張です。前回の混乱を失し、うまくコミケットを運営する為に、今回から幾つか新しい形態をとることになります。幸いなことに前回使用した川崎市民プラザをまた使わせてもらうことができるようになりましたので、市民プラザをいかにうまく使っていくかということになります。

まず、「スペース制限」があります。今までは参加したいサークル全てを収容しようと準備会がやりくりしていたのですが、それが2スペースを1スペースに減らしてもらうように交渉したり、立ち売りスペースを設けたり、ガンダムコーナーを設けたりと混乱の要因になっていたことはまちがいありません。そこで、今回からスペースが一杯になった時点で申し込み受付けを打ちきります。机の数にして200。これが上限です。申し込み用紙を送っても、一杯になっていた場合返封することになります。

次に、今まで一週間前の土・日に行なっていた事前集会を二週間前に行うことで、スペース配置図をじっくり作る時間をとります。二週間前ということをまちがえないようにして下さい。

前回から行っているブロック別の当日受付けを徹底させます。加えて、準備会スタッフは腕章をつけることではっきりわかるようにします。

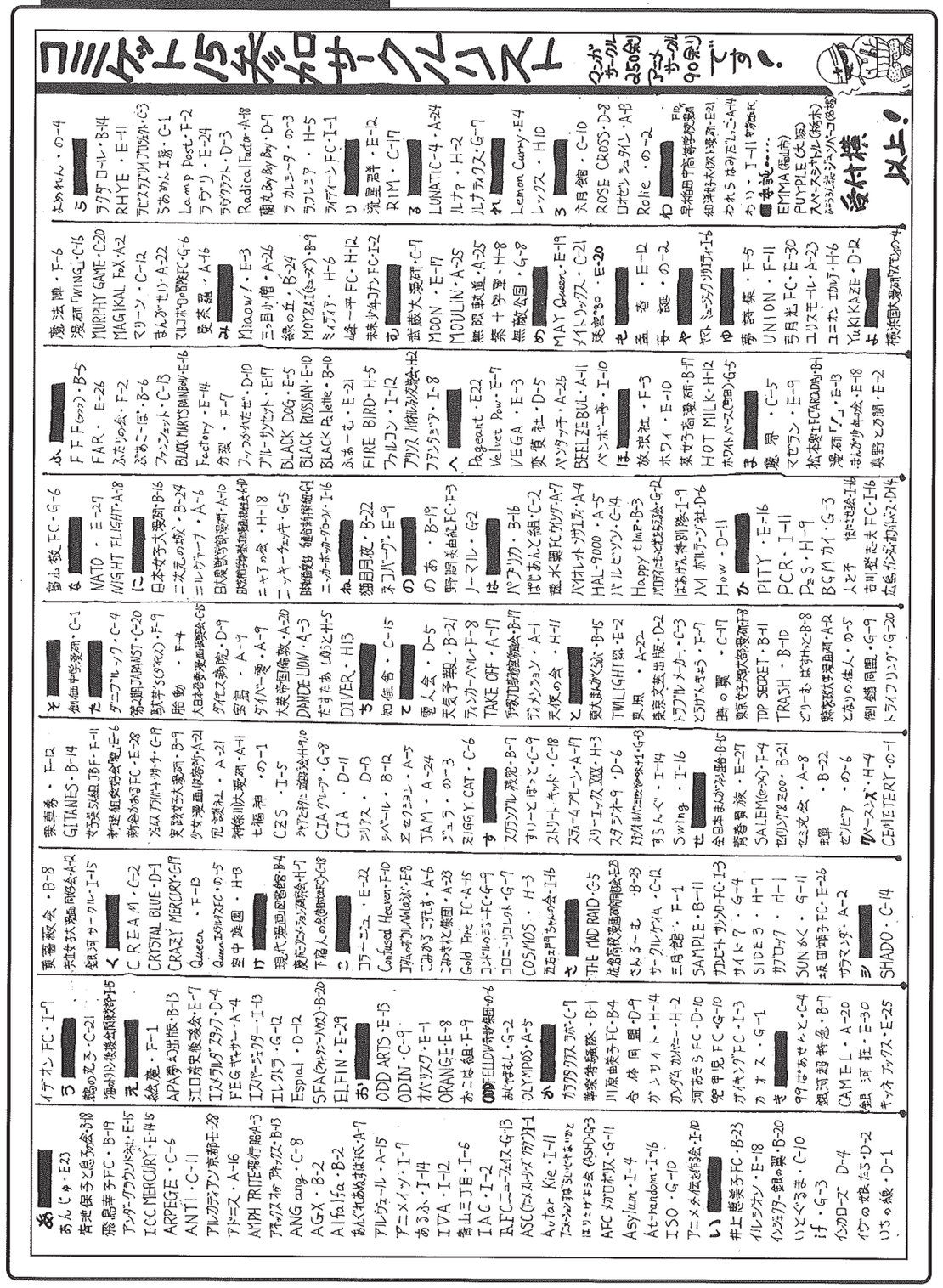
——その他少しずつ改良を加えていきますので、参加サークルの方も御協力ください。またこうしたらというアイデアがありましたら準備会までお知らせください。

コミケットアピールより（'80年7月発行）

コミケット15事前配布物より

chronicle C15

コミケット15当日配布物より



comic market 16

さえぐさじゅん

C16データと概況

開催日：1980年12月14日
会　場：川崎市民プラザ
参加サークル数：340SP
参加者数：7,000人

ポスター：さえぐさじゅん
イベント：8ミリ映画「ペーパーウォーズ」他上映。コミケット年鑑（12～14回）発行。参加を希望するサークルが急増し、スペース不足により、参加を見合わせてもらうサークルが出始める。ロリコンブーム始まる。

コミケット16事前配布物より

明日のために その2 81年に向けて！ コミケットからの緊急提案だよ!!

今度行なわれるコミケット16でコミケットは五回年を迎えます。まあ色々ありましたが年三回のペースでよくこれだけ続いてきたものだと思っています。そしてこれからも、マンガファン、アニメファンがいる限り続いていくことになるでしょう。特撮させていく為にはスタッフの強化もありますが、毎回言っている会場の確保がもっとも問題となるでしょう。

幸いなことにコミケット14から5使用している川崎市民プラザが好意的で、春と冬だったら用意可能という見通しがついてきました。それも、現在の規模ならという条件つきであることは言うまでもありません。参加サークルの上限四〇〇という枠をはめてのことではありますし、問題を行さない限りのことではありますが、これでいくらかは会場の問題は解決したようです。

しかし、夏休みの間は市民プラザ独自の企画を行なうことになっているので、夏のコミケットの会場はまだ決まってはおりません。来年の夏というとずいぶん先のことのようですが、大きな会場は今年中におさえておかなければ予約はたたないというのが実状なのです。

で、現在予定されているのが横浜産貿ホールとハルミです。産貿ホールは色々と借る為の制約があり、望み薄ということでまたぞろハルミという声が起こってきました。前回の時は冷房無しということで取りやめになったのですが、冷房空調設備の完備したハルミの会場もあり、広さは浅草の倍の広さがあり、入場収容に関しては何の問題もありません。ただ金銭的な問題があります。試算では夏ハルミでコミケットを開くには、百五十万円もかかるのです。仮に八百スペースを予定したとしたら一スペースあたりの負担は二千円です。つまり、夏だけ大コミケットという発想で多くのサークルを集め、参加費を特別に二千円ぐらいにするなら、広すぎる会場が手にはいるのですが、リスクも大きくなります。また、当然のことながら準備も早くから始めなければなりません。

「夏の大コミケットしという考えについて各サークルの方から意見をお聞きしたいと思います。この企画を実現させる為には今年中に動かなければなりません。アンケートの裏に、これに関する意見をお書き下さい。

■合宿のお知らせ・募集■

コミケット16の前日、川崎市民プラザの宿泊施設において小規模の合宿を行ないます。収容人員は約五十名、うち準備の為スタッフ二十名が泊まり込みます。準備会とゆっくり話したい人、会場が遠い人、前日ゆったり(?)としたい人、サークルで乗りたい人等、合宿に参加して下さい。ただ泊まりたい人も構いません。市民プラザ合宿に参加したい方は、11月30日までにその旨を書いて準備会宛申し込んで下さい。詳細は以下の通りです。

場所・会場より0分、美室、設備完備
お金・朝食付きで二千七百円ぐらい
時間・チェックイン午後四時
チェックアウト午前十時

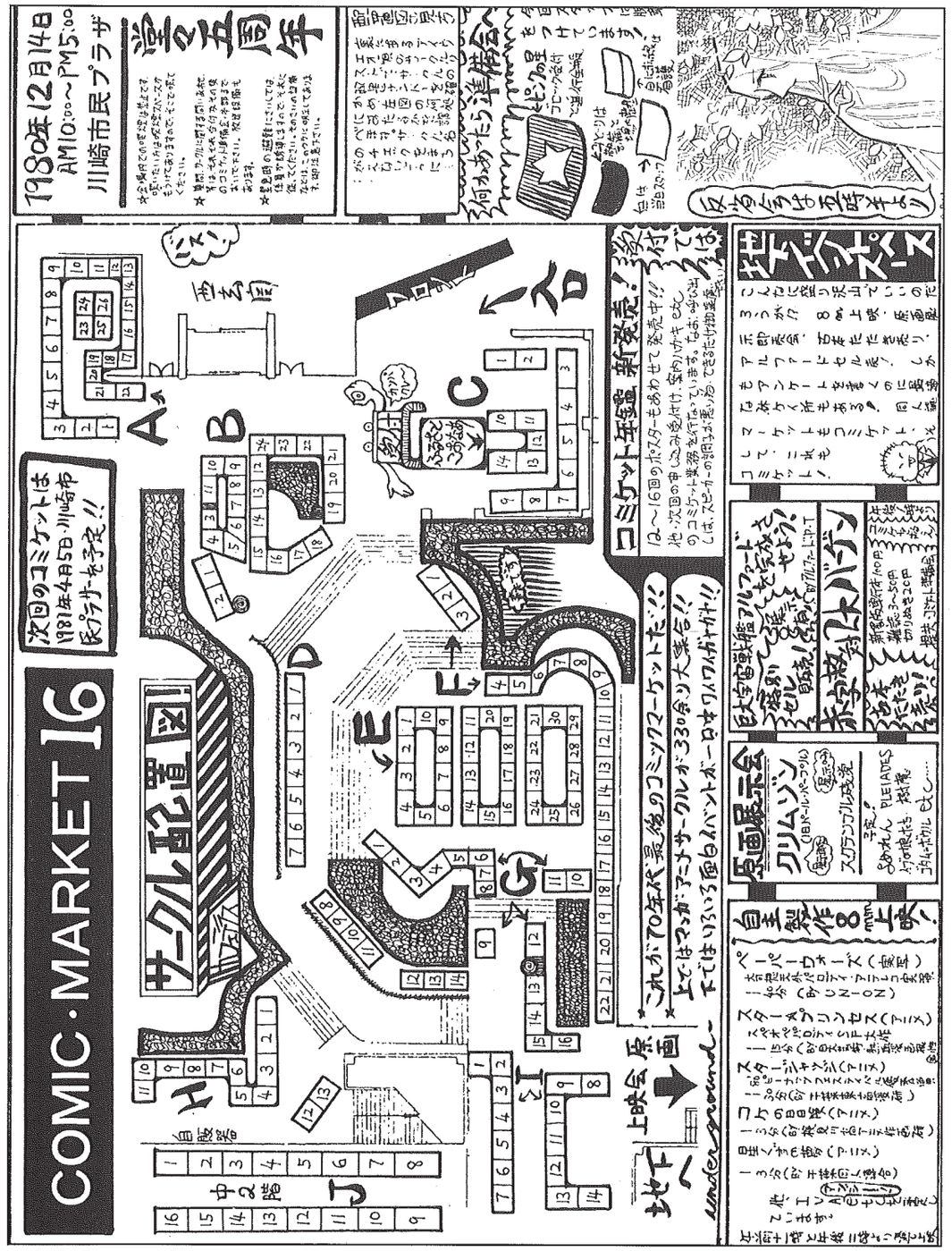
―いっぱいになり次第打ち切ります。―

■緊急連絡!!■

今回より、一スペース机半分につき、いすは一脚だけとなります。ニスペースではいす二脚です。申し訳ないのですが、赤字でひじょ～に困っておりまして、できる限り経費をつめなくてはならないんです。どうか、ご協力下さい。尚、どうしても他にいすが必要な時は、事前集会の時に、お申込み下さい。いす一脚に付、二百五十円(実費)にて、別途受付ます。

■マンガ同人誌を寄贈して下さい!!■
現代マンガ図書館 〒[redacted]

コミケット16当日配布物より


1980年12月14日
AM10:00～PM5:00
川崎市民プラザ
COMIC·MARKET 16
サークル配置図
次回のコミケットは 1981年4月5日 川崎市民プラザを予定!!
コミケット年鑑 新発売!
これがアニメ・マンガ・アニメ・サークルが330余り大集合!!
上映会原画
地下へ
under ground
自主製作8ミリ上映!
原画展示会
アリムゾン
スペランプル
PLEIADES
巨大宇宙戦艦アルフォード
赤字覚悟!!
ペーパーウォーズ
スターウォーズ
スターシャンプー
ロボットアニメ
ロボットアニメ
ロボットアニメ

comic market 17

永久保貴一

C17データと概況

開催日：1981年4月5日
会　場：川崎市民プラザ
サークル数：400SP
参加者数：推定8,000人

ポスター：永久保貴一
参加を見合わせてもらうサークルの数が急増する。軍服コスプレが目につき始める。

コミケ・レポート!
コミケット17とり行なわれる!

毎度おなじみ、コミケ17が去る4月5日ににぎにぎしくも騒がしくとり行なわれました。今回は、悪天候や代表の米沢氏欠席など悪条件が重なったものの、"コミケを考える会"が有志によって行なわれたり、反省会後のフリートーキングで活発に意見が発表されるなど、根本的なレベルに帰って"意識"が盛り上がった上、空前の入場者数を記録するなど一応の成功と言えましょう。が、一方イスの配置の混乱、入場制限における混乱など今後の課題を積み残してしまいました。
それでは、全般的姿に関してレポートしてみましょう。

場面1.――――コミケ前夜の市民プラザ

一言、トラブルの連続、担当スタッフが名簿を持ったままバイトへ逃亡。おかげで、定員44名のところ50数名で大挙市民プラザを占拠してしまいました。
さらにスタッフが少ない事も有って何もイベントは有りませんでした。今後やりたい人が居ればドーゾ。もっとも一部の某集団は、夜明けまでお祭りをしてました…。

場面2.――――当日

一部のスタッフは、天候が悪いので入場者は少ないのではないか?と甘い考えを持っていたのですが、正に甘かった。早朝よりできた行列を見て目の前が真っ暗になってしまいました。今やコミケはメジャーなのですね……

熱心なファンが多数集まって何もかも混ぜくりまわしてお祭りにするのがコミケの魅力ともいわれますからこれで良いのかも知れません。もっとも警備隊にすれば、人だけ多くて自分達の負担は増えるばかり…。となります。トラブルの発生を防ぎつつ、より自由で開かれたコミケにする―これは、スタッフのみならず、参加者全てに与えられた大きな課題でしょう。一部入場制限においてスタッフの手落ちが（大分かな……）有りましたが、これは、もう彼らの能力を越えてしまっているからです。もっともフリートーキングで、このような発言が成された以上いつか必ず解決策は生まれうる、と信じます。軍服を着てうろつく、仮装して歩く、などヒンシュクを買うような事をしていても、その入達も含めてあらゆるものがごた混ぜが魅力なのです。いつかカオスから“何か”が生まれ得ると信じつつ。そして乱文をおわびしながらレポートを終わります。（文責　I.O）
この文に関する御意見を募集します。
どのような内容であるかに関らず、コミケ準備会までどうぞ。

夏のコミケット18を前にして!

コミケットの抱えている三つの問題。すなわち、人、金、会場。何度も書いてきたことで、またかという感じもありますが、現在コミケットは「容器」としても充分に機能できなくなっています。足切りの為参加を断ったサークルは50以上にもなります。案外と居心地の良い川崎市民プラザに腰を落ちつけてしまうなら、夏休みさえ除けば、サークル数300余り年3回で開いていくことはなんとか可能です。人、金、会場はそれならギリギリ間にあいます。つまり市民プラザ側の御好意が続く限り、コミケットの保持は約束されたということです。あのせっぱつまった13～14回頃に比べば夢のような現在です。が、ルーティンは恐れねばならず、状況にあぐらをかいて閉塞していくことも避けねばなりません。例え数千人とはいえ、内輪で固まってしまうことは自らをつぶしかねませんし、可能性を追いやることでしょう。常に新しい血とインパクトを求めなければなりません。コミケットは変わり続けねばならず、またそれは参加者の欲求や状況にそってのものであることはいうまでもありません。とりあえず、夏休みに予定されている18回目について、いくらかの可能性のもとに計画を並べてみることにします。

1. 晴海の見本市会場で大コミケをやる。広さ空調申し分なし。ただ会場費高し。
2. 晴海で即売会十イベント(コスチュームショウ・演劇・ビデオ)を行い、参加費軽減の為、一般参加者から入場料をとる。
3. 9月に川崎市民プラザで行なう。
4. さらに別会場を見つけ、少々大きいコミケットを従来の形で行う。

――以上の案がでています。4についてはどうころぶかわかりません。夏を2日やるかどうかも考えるべき部分でしょう。

夏に一つの冒険をするということは、コミケットのこれからに大きな変化をもたらしかねません。メリットとデメリットは常にバランスをとっています。参加サークルの皆さんにコミケットについて考えてみて下さい。少なくとも、夏のコミケットをどういう形で行ったら最良の結果が得られるか、できるだけサークル内で話し合ってその見解を準備会に送って下さい。意見、提案を待っています。

――独断で動くには、準備会は身重になってしまったようです。　（Y.Y）

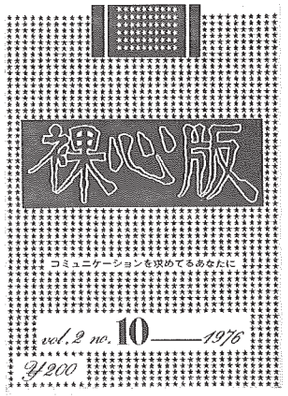
こみけっとあぴいるより（'81年2月発行）

chronicle C17

コミケット17事前配布物より

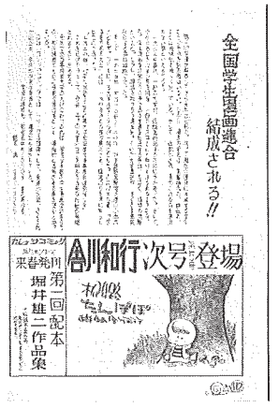
*コミケット新聞は、たんに準備からのインフォメーションだけではなく、サークル同士の交流を活性化する目的で発行されました。コミケット以外の即売会の案内なども掲載されて、2ヶ月に1回を目指しましたが、その後の混乱のため、2号までの発行となりました。

75年前後にはマンガ・ミニコミなどの分野でさまざまな動きが起こっていたが、コミケットがスタートすると、それは加速化していった。自前のマンガ雑誌、マンガと同人誌と即売会情報誌などの試みが行われていき、同人誌即売会という新しい形態のイベントも次々と立ち上がっていった。ミニコミ情報誌「裸心版」、ポストCOMを担ったミニマンガ誌「ふしぎな仲間たち」、後に『漫波コミックス』『だっくす』『ぱふ』『COMIC BOX』と名を変えていくことになる『漫波』、さくまあきらが中心となった全国学生漫画連合の「カレッジコミック」、学漫作品を中心にしたポプルス印刷の「火の車」（ここからフーミンFC《会長弘兼憲史》も現れている）などは、ミニからマスへ向けた動きだった。そして、学漫中心の小さな即売会まんが市、ミニコミ、文芸誌中心の同人誌マーケット（後のミニコミフェア、東京文芸）名古屋のコミックカーニバル、大阪の コッミクバザールなどが76年～78年にかけて立ち上がっていった。そこでは創作マンガがメインだったのである。



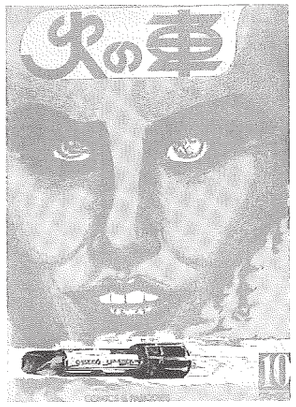
「裸心版」10月号
コミュニケートセンター水族館
1976年10月1日発行

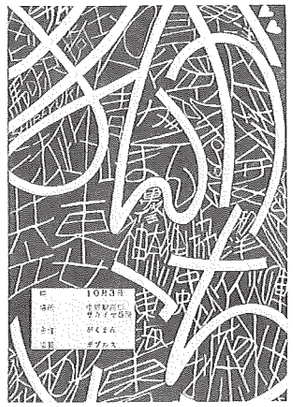
「漫波」2月号
月刊漫波刊行会
1976年2月10日発行



「カレッジコミック」VOL.4
カレッジコミック編集部
発行日不明

「ふしぎな仲間たち」9・10月号
ふしぎな仲間たち社
1976年9月1日発行





「火の車」10月号
株式会社ポプルス
1976年9月25日発行

「MAM」5月号
亮中
1978年5月発行

「銀河」No.6
文化サークル事務局
1981年6月20日発行

「望楼」VOL6
総合出版文化サークル　東京文芸
1976年3月15日発行

「エトランジュテ」10月号
ES（エス）
1977年10月1日発行

「COMICA5カタログ」
スタッフ・コミカ
1980年12月発行

「みんなでお茶を」Vol.1
みお編集室
1978年5月発行

comic market 18

くまだまり

C18データと概況

開催日：1981年8月15日～16日
会　場：横浜産業貿易ホール
サークル数：512SP　　参加者数：推定10,000人

ポスター：くまだまり
広い会場を得て、混雑はいくぶんゆるやかに。ロリコンブーム頂点に。併設イベント消滅。参加サークル及び一般参加の急増によるトラブルが目立ち始めたこのころ、準備会内部で、問題解決に対する意見の喰い違いから、分裂問題が起こる。この余波で、当初予定していた川崎市民プラザは使えなくなり、会場の変更を迫られた。

コミケット18レポート

例によって例の如くコミケット最大の規模となったコミケット18は、8月15・16日の土曜日曜の2日間に渡り、横浜は山下公園側の横浜産業貿易ホールでにぎやかに行なわれました。参加サークルは516サークルで1日420程度でした。一般参加者は、15日が7,000人、16日が6,000人位と準備会は見ています。両日とも相変わらずのコミケット晴れで、場所によっては全くクーラーがきかなかった所もあったようです。

今回の混乱は前評判の高かった「ミャアちゃん官能写真集」。開場とともに数百人がそこに列を作り、異常な熱気を見せた為、準備会では急拠、売場を2ヶ所に分けるなどの処置をしましたが、うまく対処できたと云い難い状況だった様です。もっともその混乱も1時間ほどで納まり、後は普通のコミケットとして一日は終わりました。

今回、準備会と警備側の調整がうまくいかず、サークルの出入りでいくつも問題が起こった様ですが、二日目はほとんどノーチェックという状態にした為、その問題もおさまった様です。それに、貧血を起こした人が二日で10人程。一人は入院という騒ぎになりました。聞いてみれば、2日間の徹夜に食事抜きという状態でやってきたとのこと。コミケット参加者は睡眠を充分とって、食事をしてくる様にしてほしいものです。まあ、このような具合に、なんとかかんとか夏のコミケット18は終わったのです。だがしかし……と云うわけなのです。

レポーター：米沢嘉博

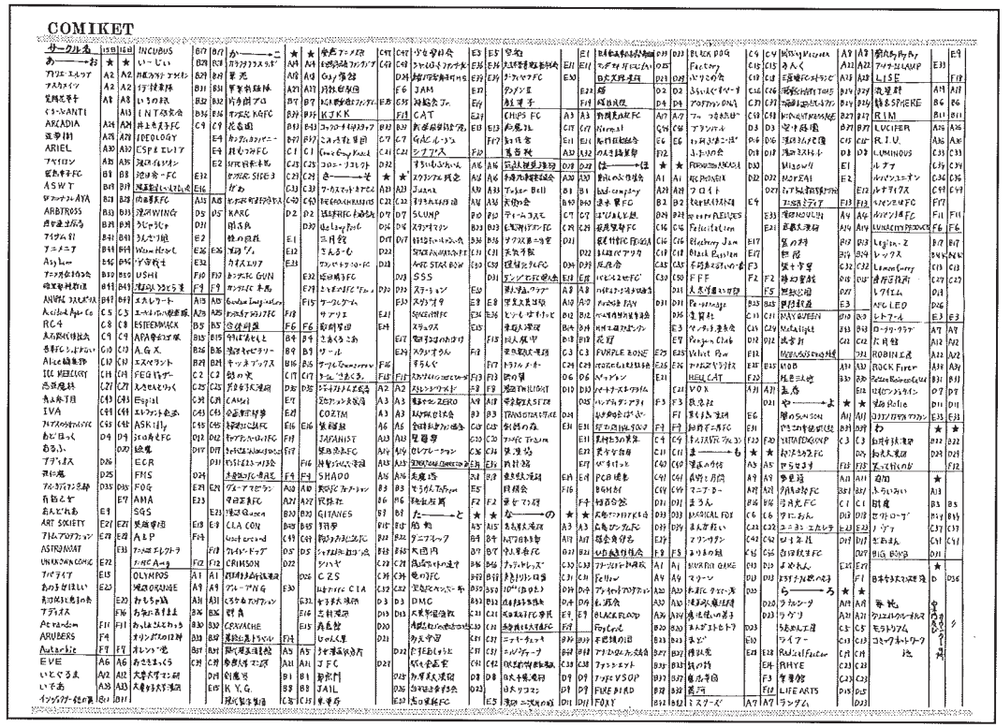
コミケット年鑑15～19　1982年3月発行より

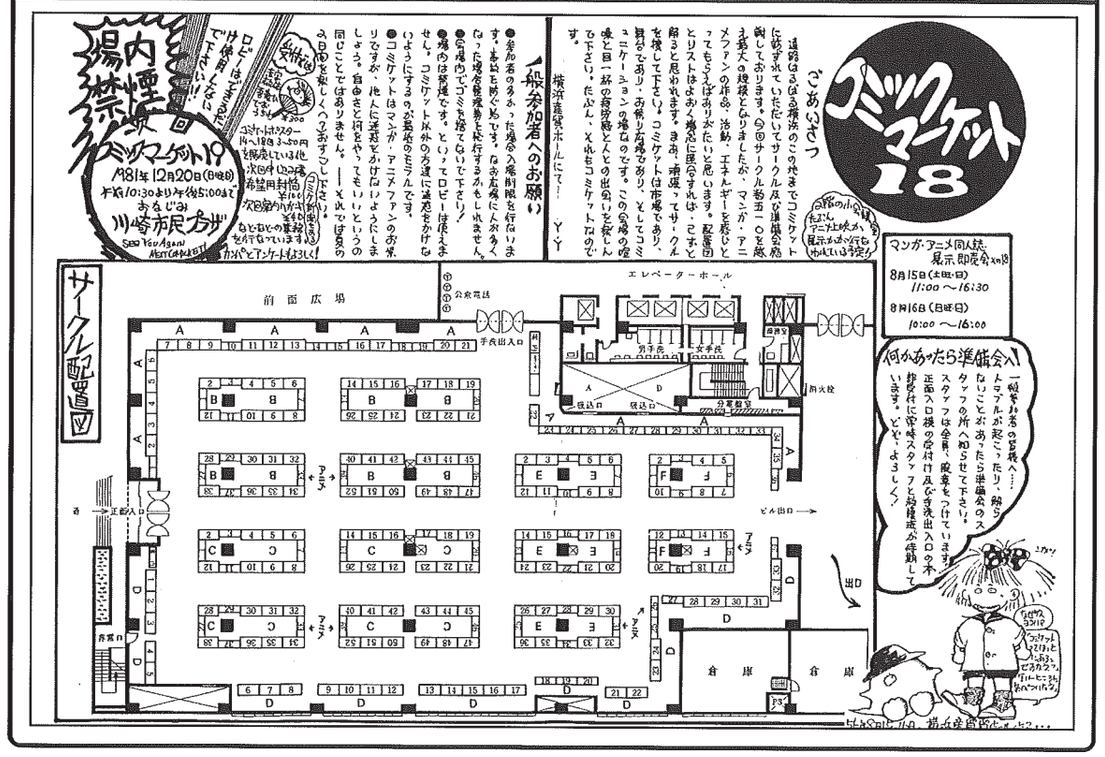
*コミケット年鑑はレポートが発展した物で、過去1年間のコミケットを振り返る形で構成されました。内容は各回のレポート、準備会からのお知らせ、参加したサークルのリストとカットです。すでに、参加申し込み書は「企画参加ガイド」として独立した配布物になっていました。やがて準備会からのお知らせの部分は、アピールとして独立。サークルリストもカタログとして独立したため、年鑑の発行は行われなくなりました。

年鑑15～19より

chronicle C18

コミケット18当日配布物より





同人誌と商業出版とサブカルチャー

最初の二年間ほどのコミケットの盛り上りと成長は、萩尾、竹宮、大島などの花の24年組少女マンガのブームと重なった為だった。古いタイプ、つまり「COM」世代の創作は退潮傾向にあり、少女マンガが圧到的に強かった時代だ。それに拍車をかけたのが、「漫画新批評大系」連載のホモパロディ巨編「ポルの一族」、ヘトガー・マラン・ジンガルベル・マホービンが折りなす狂気の変態世界は、少女たちを熱狂させ、ホモ・パロディを続出させることになる。

また、コミケットを中心に、アニメ、少女マンガ、ロック、絵画、SF等に影響を受けた新しい感性の描き手達も登場していた。さべあのま、めるへんめーかー、高野文子、高橋葉介、柴門ふみ、湯田伸子、etc。つまり、ようやっと、コミケットという場はプロダムとは違った世界を展開し始めようとしていたのだ。

そして、それをすくいあげようという若い編集者も出てきていた。マルイの頃から集会に参加していた佐川氏、板橋あたりからスタッフとなっていた川本耕次氏。佐川氏は、半年かかって社長をくどきおとし、新雑誌創刊にこぎつける。なにしろ、毎朝毎朝、社長の机の上に。新しい同人誌を置いての攻勢だったらしい。新雑誌は、美少年をテーマにした「JUN」。やがて、タイトルは「JUNE」に変更となる。

川本氏は、三流劇画特集の取材時のコネを生かしてみのり書房に入社し、どういう甘言をろうしたのか、マンガ雑誌をまもなく創刊させることになる。三流SFマンガ誌「Peke」がそれだ。共に、78年の夏のことだ。同時期には『プリティプリティ』『はーい』が創刊されており「奇想天外」の“SFマンガ特集号”も出ていた。時代がそういった波にのりつつあったのかもしれない。つまり、メディアのニューウェーブだ。この二誌は半年ほどで休刊となり、いわゆる“ぼくらのマンガ”は敗退することになるのだが、それから数年後『JUNE』は復活し、『peke』も「アゲイン」と名を変え再生、ニューウェーブブームを巻き起していく。

そんな、熱い期待を抱かせた時期、恒例となった夏の合宿に参加したメンバーには、『OUT』編集長T、なかなか出ない『漫金起』編集長高宮成河、ロリコンの立役者となる蛭子神健、メカデザイナー出渕裕、青年マンガラブコメのはしりとなった野辺利雄、某アニメ雑誌編集者等々…。下の写真は一部では“日本のマンガとアニメをダメにした〇〇人”と呼ばれている……。

コミケット年鑑'84
1985年8月発行
「夢の記憶　記憶の夢ーコミケット私史ー」米沢嘉博より

「JUNE」創刊号
KKサン出版
1978年10月1日発行

「COMIC AGAIN」6月号
みのり書房
1979年6月発行

「Peke」創刊号
みのり書房
1978年9月15日発行

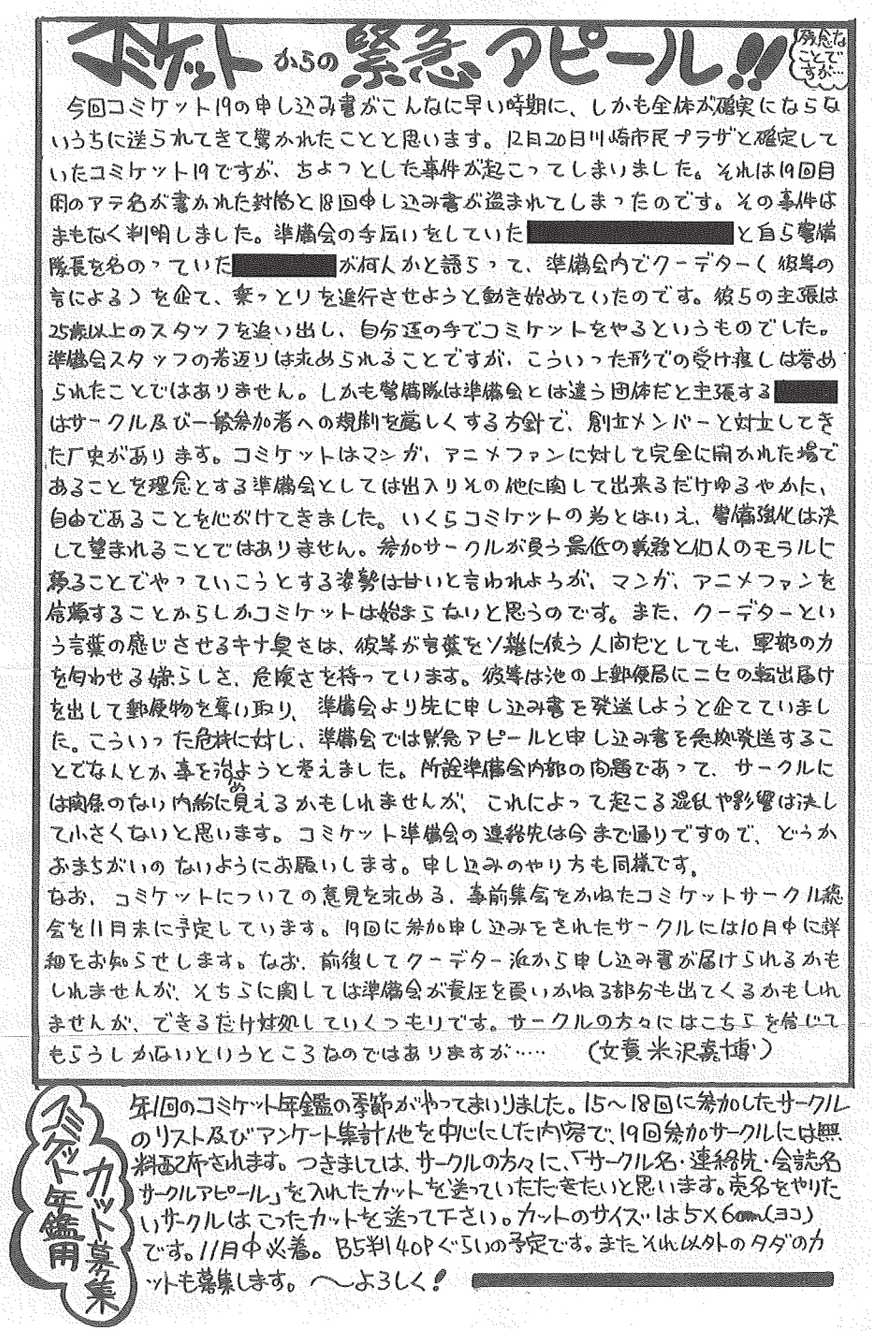
「OUT」3月号
みのり書房
1978年3月1日発行

1987年撮影

コミケットクーデター(分裂)!?

Comiket Topicks!

コミケット準備会内での分裂騒ぎは、会場側やサークルに混乱を招きかねないと判断した、創立メンバーたちを中心に、サークルに向けて緊急アピール付申込書が送付されたのは81年9月のことだった。まだコップの中の嵐といった時代だったが、これ以後コミケットは自らに課すべき憲法に依る「理念と目的」などを明文化していくことになる。理想と現状、目的と手法のズレなどは、当初からコミケットの抱えていた問題でもあったのだ。



コミケットからの緊急アピール!!

厚かましいことですが…

今回コミケット19の申し込み書がこんなに早い時期に、しかも全体が確実にならないうちに送られてきて驚かれたことと思います。12月20日川崎市民プラザと確定していたコミケット19ですが、ちょっとした事件が起こってしまいました。それは19回目用のアテ名が書かれた封筒と18回申し込み書が盗まれてしまったのです。その事件はまもなく判明しました。準備会の手伝いをしていた[redacted]と自ら警備隊長を名のっていた[redacted]が何人かと語らって、準備会内でクーデター(彼等の言による)を企て、乗っとりを進行させようと動き始めていたのです。彼らの主張は25歳以上のスタッフを追い出し、自分達の手でコミケットをやるというものでした。準備会スタッフの若返りは歓められることですが、こういった形での受け継しは認められたことではありません。しかも警備隊は準備会とは違う団体だと主張する[redacted]はサークル及び一般参加者への規制を厳しくする方針で、創立メンバーと対立してきた厂史があります。コミケットはマンガ、アニメファンに対して完全に開かれた場であることを理念とする準備会としては出入りその他に関して出来るだけゆるやかな、自由であることを心がけてきました。いくらコミケットの為とはいえ、警備強化は決して望まれることではありません。参加サークルが負う最低の義務と個人のモラルに頼ることでやっていこうとする姿勢は甘いと言われようが、マンガ、アニメファンを危険することからしかコミケットは始まらないと思うのです。また、クーデターという言葉の感じさせるキナ臭さは、彼等が言葉をソ離に使う人間だとしても、軍部の力を匂わせる嫌らしさ、危険さを持っています。彼等は池の上郵便局にニセの転出届けを出して郵便物を奪い取り、準備会より先に申し込み書を発送しようと企てていました。こういった危機に対し、準備会では緊急アピールと申し込み書を急換発送することでなんとか事を治めようと考えました。所詮準備会内部の問題であって、サークルには関係のない内紛に見えるかもしれませんが、これによって起こる混乱や影響は決して小さくないと思います。コミケット準備会の連絡先は今まで通りですので、どうかあまちがいのないようにお願いします。申し込みのやり方も同様です。

なお、コミケットについての意見を求める、事前集会をかねたコミケットサークル総会を11月末に予定しています。19回に参加申し込みをされたサークルには10月中に詳細をお知らせします。なお、前後してクーデター派から申し込み書が届けられるかもしれませんが、そちらに関しては準備会が責任を負いかねる部分も出てくるかもしれませんが、できるだけ対処していくつもりです。サークルの方々にはこちらを信じてもらうしかないというところなのではありますが……　(文責 米沢嘉博)

コミケット年鑑用カット募集

年1回のコミケット年鑑の季節がやってまいりました。15〜18回に参加したサークルのリスト及びアンケート集計他を中心にした内容で、19回参加サークルには無料配布されます。つきましては、サークルの方々に、「サークル名・連絡先・会誌名・サークルアピール」を入れたカットを送っていただきたいと思います。売名をやりたいサークルはこったカットを送って下さい。カットのサイズは5×6cm(ヨコ)です。11月中必着。B5判140Pぐらいの予定です。またそれ以外のタダのカットも募集します。〜よろしく!

コミケットクーデター（分裂）!?

クーデター事件のころ

この事件に関して思い出を書いてみようと思う。

彼ら（クーデター派）は最初のコミケ部屋の常連かつ出資者（当初はお金を出し合って借りていた）で、事務作業もそこで行っていたからコミケの中枢であることを自負していたことは間違いない、しかしながら、いわゆる古参はあまり部屋には近づかず（僕は家が遠かったので良く利用していた、したがって彼らとは顔見知りでもある）、米澤氏でさえ「この部屋は呪われている（笑：これについてはコミケット年鑑84米澤嘉博「夢の記憶・記憶の夢」参照）」とかであまり来なかった、なお、余談だが部屋代についての不満・トラブルもあったようだ。

さて、川崎市民プラザ3回目頃から2階の部屋をアニメ同人誌専門エリアにしたところ、これが大混雑で整理をする為に、彼らを中心に「警備隊」（以前は警備員と言っていた）が結成された、事務中枢（？：本当に重要なことは別の場所で行われていた）かつ最前線担当ともなれば「コミケを背負って立っているのは俺達だ」と思うのは無理のない話であったかもしれない、しかしながら、「激しい対立」は毎週顔を突き合わせていながら、とんと話題にもならず、言い争いをした覚えも無かった（米澤氏と彼らは話し合っていたかもしれないが僕には本当に何の話も無かった、もしかしたら最初からパージ されていたのかもしれない）。

対立が表面化するのは、第18回横浜産貿ホール以後である、水面下で機運は盛り上がっていたかもしれないが分裂の発火点までちょいと温度を上げたのは多分僕であったろう、「警備隊」は「アニメエリア」警備体制を全体の運営に適用しはじめ、それに対し僕は「なにもそこまで」と感じてはいたが、決定的だったのは「トイレ使用規制」だった、横浜産貿ホールのトイレは会場エリアの外にあり、そこにサークルが行くのにも「警備隊」が怒鳴りつけて規制をしていた、これは参加者の安全とは何の関係も無い、さすがに（と温厚そうなことを言っているが今も昔も「瞬間湯沸器」なのは「知る人は知って」いる）僕も切れてしまって「非常に強く」叱りつけたのである、当時僕は準備会内では武道の達人とされていた（実際は武道は好きだが、実力は皆無）のでかなり効いたようだ、当然「真面目に一生懸命やっていたのに」と彼らに「御注進」に行ったのは想像に難くない。

これは、初めて規制する立場に立つと多くの人が罹る「権力酔い」であったのだろう、既にコミケ16のアピールに警備員の高姿勢・横暴についての意見募集が掲載されている。

横浜コミケ直後、彼らは部屋からの「見本誌持ち去り」、「クーデター宣言」、「郵便局への準備会住所変更届出」と矢継ぎ早に手をうってきた、その時は気づいていなかったが川崎市民プラザ（会場）も押えていたようだ（戦術的にはなかなかのものだ）。

彼らがもっと全体を見る器量のある人材であったら米澤氏は素直に（あるいは大喜びで）代表の座を譲っていたかもしれないが彼らがやってきた事といえば姑息かつ権力的なことばかりで（私的見解）これではとても任せられないと考えたのか、ある日急に一部の古参のみに招集がかかった。

起死回生の一手「サークルへの緊急アピール付申込用紙の発送」集会（数人）である、「彼らより先に案内を出しビジョンを示す」ことが心理的にも手続き的にもサークルの信頼を得る最大の手段なのだ、時間との戦いで作成発送を終えた、パンフレットでは此処から話が始まり紆余曲折があった事を述べているが、ここで既に大勢は決していたのである、あとは終戦処理でしかないと僕は考えている。

発送を終えて米澤氏と夜道を歩きながら色々話し合っていたが「そろそろ理念を成文化しなければいけないねえ」ということになり米澤氏が作成することとなった、初期からの暗黙の了解事項が主であるが、彼らの権力的な振る舞いから「準備会に権力は無い」が加わり、古参パージ 要求から「具体的な妨害行為をしない限り参加を拒否しない」が再確認されることになる（これについては「漫画大会」批判者参加拒否事件からコミケが出来たこともあり、初回からの最も基本的な理念である）。

会場についても後日川崎市民プラザに行ったところ、既に押えられており同じ名前の団体には貸せない（双方とも：統一してくれれば貸す）ということであったが、浅草コミケ「ぼや事件」以後の会場探しの一環として晴海貿易センター行っており以後何度も足を運び連絡をとっていたので電話1本で話はつき会場問題は解決した（とはいえ会場費の高い晴海はサークル参加数が少なければ借金を抱えるのでひやひやものであった、また、晴海を借りる場合防火管理者が必要であるが初回は知り合いの名前を借りて事なきを得た、以後は僕が講習を受け資格を取って有明に移るまで防火管理者を続けた、何か事故がおきれば本職も首になるのでこれもまたひやひやものであった）。

不可解だったのは彼ら(改革派と改名したらしい(爆笑))が最後まで何ら具体的なビジョンを示してこなかったことだ。「漫画の手帳」のF氏が彼らに取材したとのことで話を聞いたところ「不満ばかりで、何がしたいのか、何が言いたいのかわからなかった」とのことであった、僕が「そんな格好ええもんじゃねえや」と言いたいのはこれによる、もっともこちらにしても格好よかったわけではないが「初期理念」の旗は下ろしていなかった、まあ個人的に言えば彼らの（小さな）権力の振り回しが大嫌いだったことにもよる。

面と向かっては何も言わないのに、どこからか聞こえてくるのは古参の排除（パージ）要求ばかりであった（米澤氏だけは後に許してやると言われたそうだ（大爆笑））。

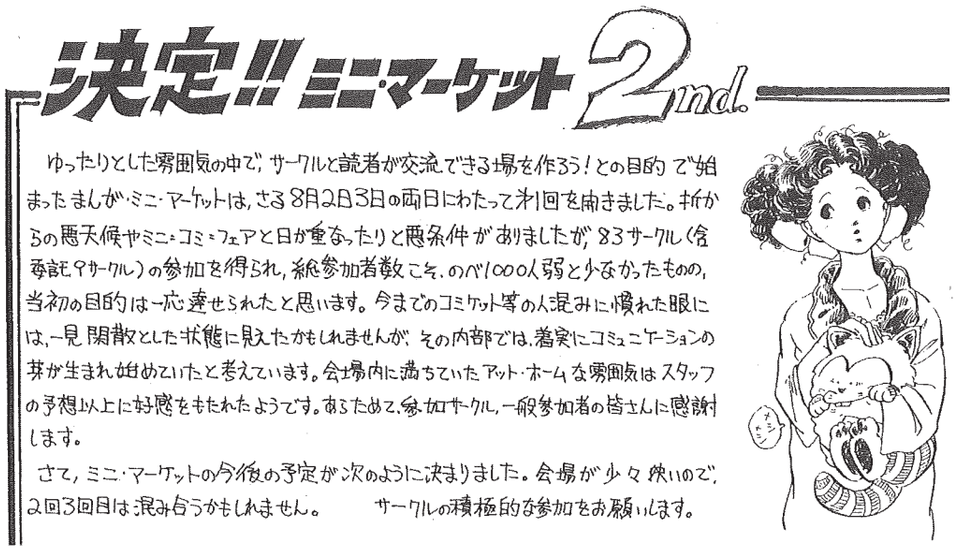
それやこれやで、分裂開催（彼らはコミックスクエアと改名）となったが、19回の初めての晴海コミケは参加サークル750で18回の1,5倍、借金を抱えなくて済んでほっとしたことではあった。

最後に、不思議でならなかったのは、あれだけ「規制」「統制」を叫んでいた彼らが、コミックスクエアを開くにあたって声優やアイドルを呼んで盛り上げるなど「軟派」な作りにしていたことだ、僕の目が彼らの「規制」「権力乱用」にしか向いていなかったのかもしれないが、長い間「？」状態であった。

十数年後、さる事情通から「彼らは一人一人目論見が異なっておりバラバラだった、一人は当時最大のサークル参加を誇る即売会のトップと言うステータスが欲しかったし、一人は最大即売会の看板を背負ってアニメ等の業界に渡りをつけたかったし、一人は・・・単に引きずり込まれたんじゃないか？彼が1番の貧乏籤（赤字返済）を引いたようだが・・・」と言うことを聞き、ようやく納得がいった、やはり僕の目は一方にしか向いていなかったのだ。

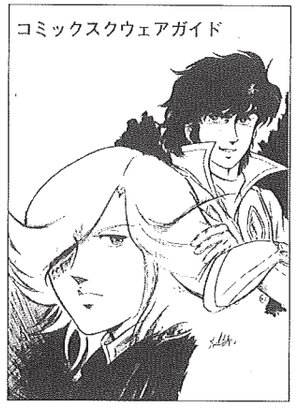
<A>

ミニ・マーケット2nd告知チラシ



ミニ・マーケット2ndカタログ
1980年10月発行

コミック・スクウェア6カタログ
1983年9月発行



コミック・スクウェア9カタログより
1984年9日発行

コミケットは全てを受け入れる場として始まりました。しかしそのことは、全てが揃っていることと直結するわけではありません。たとえば、最初の頃にあった、サークルとサークル、作者と読者、更にファン同士の、濃密で直接的な交流は参加者の増加と共に薄まってきました。一方、新たな参加者であるアニメファン達からは、商業作品の上映会や声優のミニイベントなど望む声も上がりました。様々な要望をコミケットという一つの場で実現することは不可能です。それぞれの望みに応じた場を作らなければならない。MGMとコミック・スクウェアという二つのイベントが、コミケットから生まれたのはそのような流からであると捉えることが出来ます。

サークルとサークル、サークルと読者が対話できる場を目指した、MGMは、ミニ・マーケットの名称で、1980年8月2・3日に迷宮 80の主催によって第1回が行われました。

コミック・スクウェアは、新・コミックマーケットの名称で第1回を、1981年12月20日の第二電波ホール（千代田区外神田）で行い、第2回以降コミック・スクウェアに名前を変えて開催されました。